ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI News

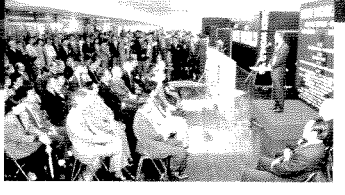
1997年1月31日発行

Vol.3

MIDI WORLD '96 期待通りの大盛況！

左よりテープカットに臨む日吉会長、河野次長、菅谷常務

祝辞の言葉を聞き入る来賓の方々



式場には入りきれないほどの人であふれている

1996年10月25日(金)から27日(日)の３日間、東京・池袋サンシャインシティ文化会館2F展示ホールDにおいて「ＭＩＤＩ ＷＯＲＬＤ'96」が開催された。開場に先立つ25日の午後４時からは入口前ホールにて、ＡＭＥＩ会員、関連諸団体、ご来賓など１５０余名が見守る中で、社団法人音楽電子事業協会専務理事中田健氏の司会により開会式が催された。

はじめに社団法人音楽電子事業協会会長日吉昭夫氏、日本経済新聞社常務取締役菅谷定彦氏の両氏より主催者の挨拶があり、続いてご来賓の中から通商産業省機械情報産業局次長河野博文氏から祝辞が述べられた。

各氏より「日本発信のＭＩＤＩ規格」の発展、普及、啓蒙活動への貢献を期待する旨の励ましの言葉の後、４時15分、ＤＴＭ（コンピュータを通じた音楽演奏）によるファンファーレをバックにしながら、上記３氏によるテープカットが行われた。にぎやかな中にも重みのある開会式が開かれたのである。

この日は業界関係者をはじめ、ご招待のお客様の内覧会ではあったが、午後８時の閉場まで約１５００名余の参会者でにぎわった。

CONTENTS

MIDI WORLD '96レセプションレポート……2
MIDIセミナー結果報告……3
出展社一覧・入場者分析・アンケート分析……4
会長・副会長年頭挨拶……6
AMEI部会長年頭インタビュー
　標準化インターフェース部会……7
　標準化プロトコル部会……7
　MIDI規格検討部会……8
　応用研究部会……8
　安全規格部会……8
　環境問題研究部会……9
　マーケティング部会……9
　マルチメディア研究部会……9
　カラオケ部会……10
　伝送系部会……10
　プロテクト部会……10
AMEIオフィシャルホームページのご案内……11
AMEI会員名簿……12

社団法人音楽電子事業協会

開会レセプション報告

乾杯の音頭をとる保志忠彦副会長

開会レセプションの模様

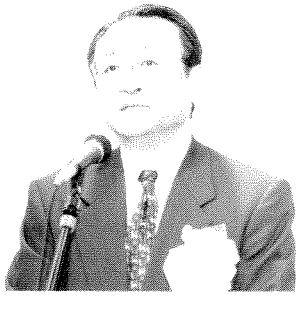
内覧会当日の25日には、ＡＭＥＩ関係者・関連団体をはじめとする多くのご来賓、約１５０名の参加をいただいたレセプションが、午後６時30分よりサンシャインシティ・文化会館特別ホール５０２号室で開かれた。

司会を務められたのは、社団法人音楽電子事業協会の江間昌明運営委員長。主催者としては社団法人電子音楽事業協会の梯郁太郎副会長、日本経済新聞社常務取締役菅谷定彦氏のお二人より、参会皆様へのお礼のご挨拶をいただいた。そして通商産業省機械情報産業局情報処理システム開発課長振角秀行氏が、来賓のご祝辞を述べられた後、社団法人音楽電子事業協会の保志忠彦副会長の音頭によって乾杯が行われた。

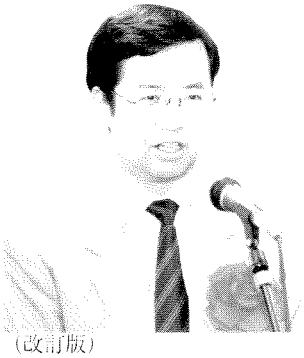
レセプションは終始、盛大かつ和やかな雰囲気のなかで進み、随所で賑やかで友好的な交流・談笑が続いていた。午後８時頃に村井栖夫常務理事の中締めがあり、８時30分頃、レセプションは終了となった。

レセプションで挨拶をする梯副会長

主催者の挨拶に拍手で応えるご来賓の方々



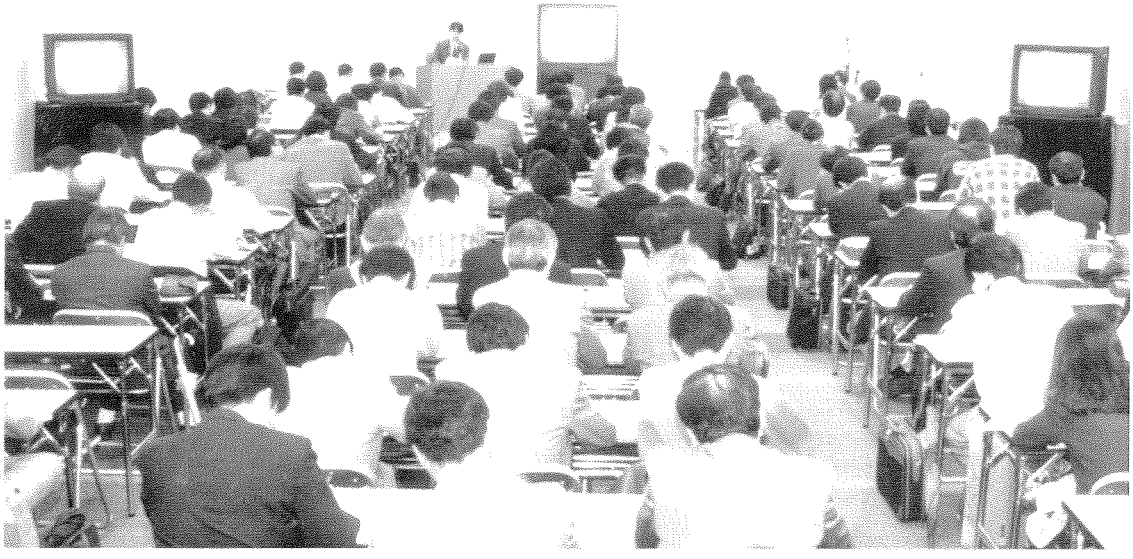
参加者へお礼を述べる菅谷常務



来賓代表の振角課長

至る所で歓談が続く

MIDIセミナー結果報告



MIDI WORLD '96の開会に先立って開かれたセミナー風景

次世代ＤＴＭショップへの展望
～インターネット・ＭＩＤＩ・流通～

「ＡＭＥＩ／ソフトウェア委員会・マーケティング部会」主催によるセミナーが「MIDI　WORLD　'96」の開会に先立って開催された。

音楽業界を新しいテクノロジーと流通の側面から考えるビジネスセミナーで、今話題のインターネットなど、音楽業界を取り巻くさまざまなトレンドを解説していきながら、経営に役立つヒントを提供したのである。

セミナーは２部構成で行われ、入場者数は約１３０名で大変盛況裏に開催された。

第１部はこの分野での第一人者の小松義光先生を講師に迎え、「楽器市場とDTM」、「これからの楽器店に必要なもの…新業態提案」、「MIDIとインターネット」をテーマにし、「マルチメディア新業態ショップのインターネット上でのプレゼンテーション」、「ホームページにおける販促例」、「ソフトシンセによる音楽流通革命」などの実演も交えての講演が行われた。

また、第２部では業界の様々な分野でご活躍の方々（下記）にパネラーをお願いして、「次世代ミュージックショップを考える」をテーマにしてパネルディスカッションを行い、様々な最先端の情報が披露された。

講演・パネリスト・司会

講演・モデレーター
(株)シンタックス代表取締役　小松義光氏

パネリスト
(株)カメオインタラクティブ副社長　村井清二氏
(株)コルグ　メディアテクノロジー事業開発室長　奥原俊彦氏
(株)寺島情報企画　ＤＴＭマガジン編集長　寺島明人氏
(株)山野楽器　ビュータラビット店長　竹本　薫氏
ヤマハ(株)ＸＧ事業推進室企画制作担当次長　二間瀬剛氏
(株)リットーミュージック　キーボードマガジン編集長　松中康夫氏
ローランド(株)ＤＴＭＰプロジェクト部マネージャー　山端利郎氏

司会進行
ソフトウェア委員会委員長　小田聖之氏

出席者の質問に答える二間瀬剛氏

MIDI WORLD '96 開催結果報告

出展企業一覧

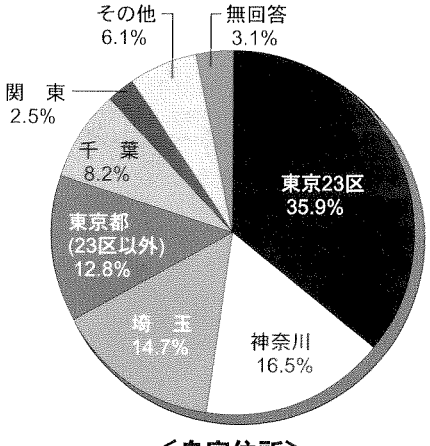
株式会社アイデックス
アップルコンピュータ株式会社
有限会社インターネット
株式会社エクシング
エディロール株式会社
カシオ計算機株式会社
株式会社カメオインタラクティブ
株式会社河合楽器製作所
有限会社キュービックエナジー
株式会社コルグ
株式会社シーミュージック
島村楽器株式会社
株式会社鈴木楽器製作所
株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス
ソニー株式会社
ソフトバンク株式会社
株式会社第一興商
株式会社タイトー
ティアック株式会社

■出展社数　37社　258小間

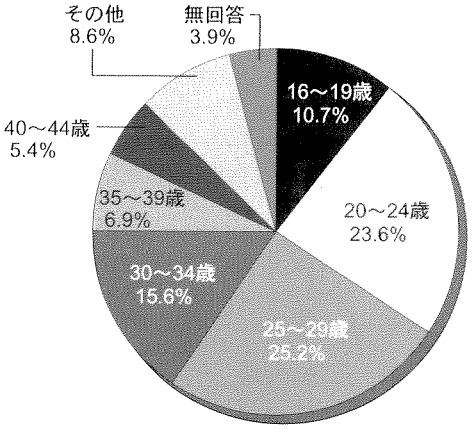
TDK株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本シンセサイザー・プログラマー協会
日本データパシフィック株式会社
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社
パイオニア株式会社
フォステクス株式会社
富士通株式会社
松下電器産業株式会社
株式会社ミディア
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー
有限会社ミュレイディア
株式会社モリダイラ楽器
ヤマハ株式会社
株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット
ローランド株式会社
(五十音順)

■入場者数合計　約17,250名

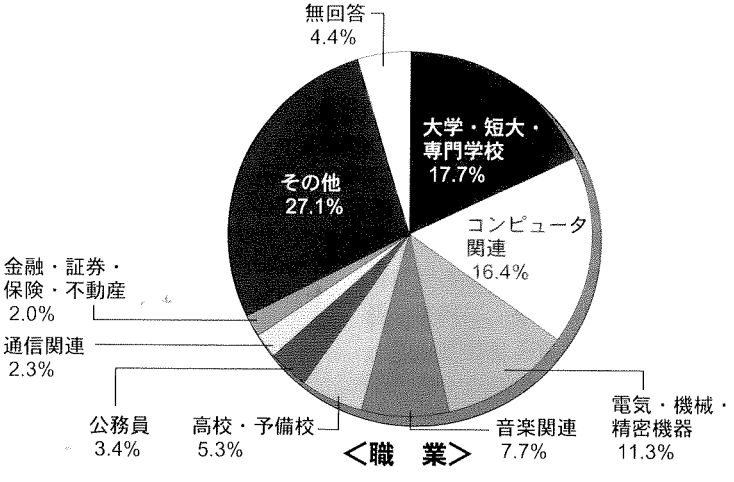
入場者分析



<自宅住所>

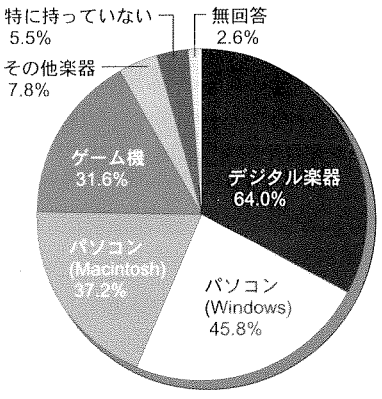


<年　齢>

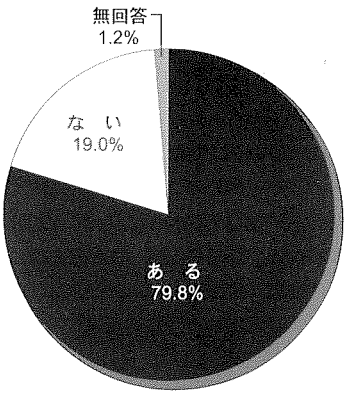


<職　業>

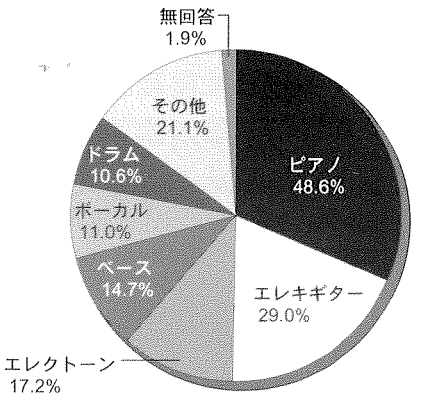
アンケート分析



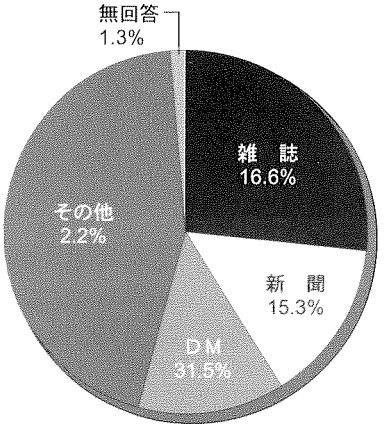
＜保有している物＞



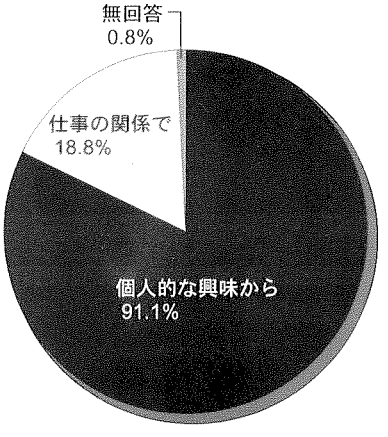
＜楽器演奏経験＞



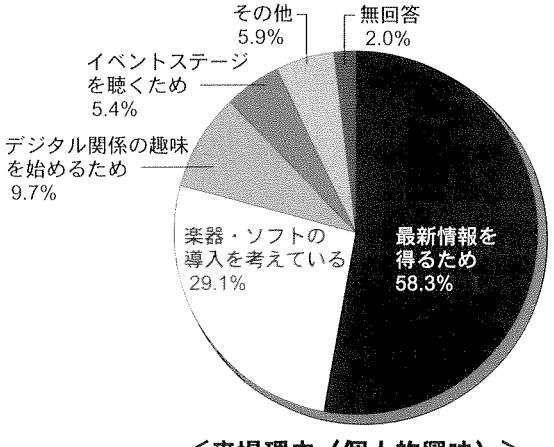
＜演奏経験のある楽器＞



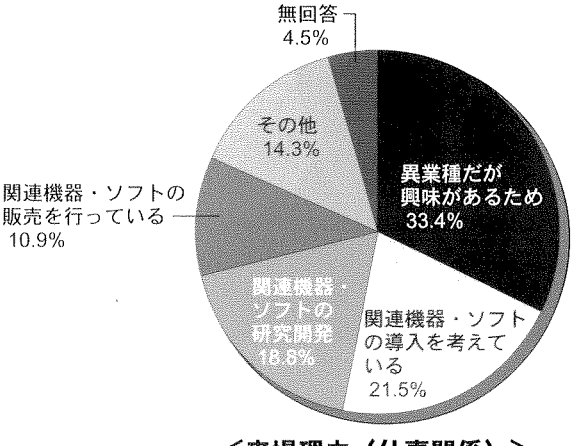
＜開催認知経路＞



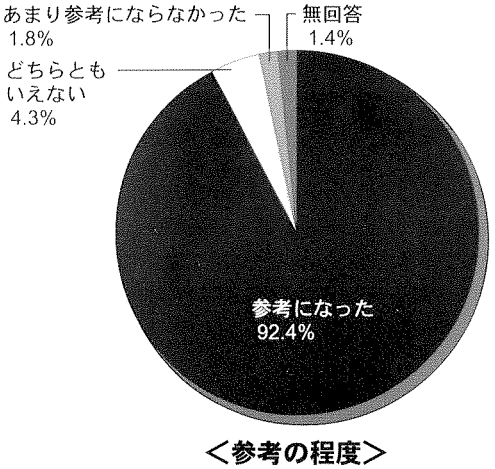
＜来場理由＞



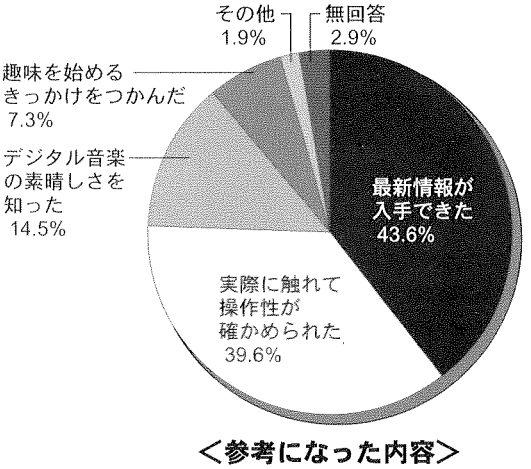
＜来場理由（個人的興味）＞



＜来場理由（仕事関係）＞

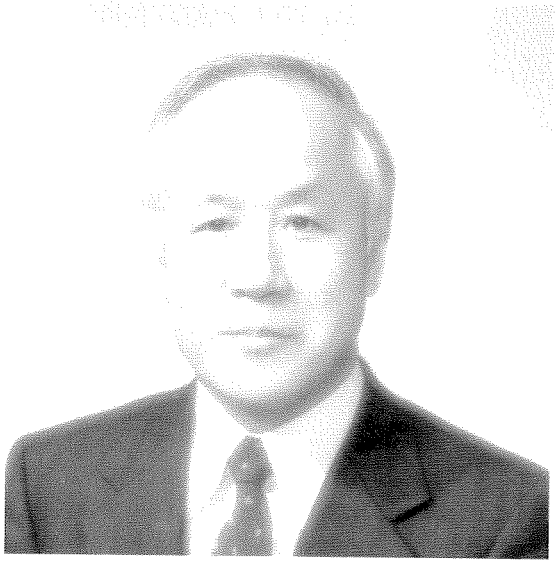


＜参考の程度＞



＜参考になった内容＞

1997年を迎えたAMEIへ



音楽電子の新時代を迎えて

日吉昭夫　会長

1997年も1ヶ月ほどを過ぎ、会員の皆様はすでに活発なご活躍を始められていると思います。昨年は会員各社、各人のご熱意、ご努力、ならびに通商産業省のご支援により、社団化を達成し、各委員会も予定以上に活発な活動ができましたことを心より感謝申し上げます。

情報化時代が叫ばれている中で、音楽電子も情報のひとつとして発展し、進化を遂げつつあり、ＭＩＤＩ規格を中心に新時代に入ってまいりました。当協会は、その発展、進化を促進するため、今年も７つの委員会を中心に活動してまいります。規格制定や著作権など、対立点の多い難問題は、長期的視野で、ユーザーや権利者の立場にたって、業界の発展のため解決を図りたいと思います。

今年も会員の皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

今年も活発な交流で充実した活動を

梯郁太郎　副会長

会員の皆様は新年をどのようにお迎えになられましたでしょうか。

昨年10月のＭＩＤＩ　ＷＯＲＬＤは、新生ＡＭＥＩにとって初の大きなイベントでしたが、皆様のご協力により大成功を収めることができました。

会員数の増加にも現れております通り、ＭＩＤＩに対する関心と期待は業界の枠を越え、年々高まっております。今年は映像の分野にもさまざまな形でＭＩＤＩが応用されていくことが予想され、その中で社団法人となったＡＭＥＩの果たす役割は一層重要になってまいります。各部会・委員会を中心とした事業の活性化のためにも、皆様からのアイデアやご提案をお待ち申し上げておりますので、引き続きご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

ＡＭＥＩの意義

保志忠彦　副会長

寒さ厳しいおり、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。昨年４月に社団法人として出発したＡＭＥＩにとって、本年はさらなる発展を遂げるべき１年であると同時に、その真価を問われる時期にあると考えます。マルチメディアは、権利関係の処理の未整備等いくつかの問題点を抱えながらも、確実にスピードを増しながら社会に浸透し続けているといえるでしょう。それは本来、個々人の生活を便利に、そして豊かにすることを目的としているはずです。

我々音楽電子事業に携わる事業者もマルチメディアの一翼を担う立場で社会貢献しているといえるでしょう。ＡＭＥＩは、今後とも会員各企業が委員会・部会で交流しながら、健全かつ順調に業績を伸ばすことができるような組織になるべきと考えます。

AMEI部会長年頭インタビュー

1996年の設立以来、盛んな活動を続けてきたAMEIの専門部会。発足当初から複雑で困難な課題に前向きに取り組んできていただいたことは、すでにご存じのことと思われます。ここでは各部会の主査・部会長の方々に昨年１年間の主な活動内容と今後さらに検討を必要とする重要課題、97年を迎えての抱負などを語っていただきました。

標準化インターフェース部会

インターフェース回路の標準化がＪＩＳ規格化への鍵

ＭＩＤＩのＪＩＳ規格化にあたっては回路間の安定した電流ループの確保など技術面での検討のみならず、将来の新規参入メーカーの機器などとの確実な接続など重要課題は多い。

小池正彦　主査

編集：はじめにＡＭＥＩにおける標準化インターフェース部会の位置付けについてお聞かせください。

小池主査：ＭＩＤＩ規格をＪＩＳ規格化しようという動きの中、「ＭＩＤＩのインターフェース回路をどのように標準化してＪＩＳ規格の中に取り込むべきか」を検討する目的でこの部会は設置されました。

また、母体である電子音楽標準化方針委員会が、『ＭＩＤＩ規格のＪＩＳ規格化』という具体的な最終目的をもっていますので、その委員会の中のもうひとつの部会である標準化プロトコル部会とも密接に関わりあいながら、目的を達成していきたいと思っています。

編集：貴部会の現状の活動内容について少しお話ししていただけますでしょうか？

小池主査：大きな流れでいえば、前述の標準化プロトコル部会と歩調を合わせながら、ＭＩＤＩ規格をＪＩＳ規格化するための技術的な具体案作りを行っているということになります。とくに現在は、インターフェース回路間で安定した電流ループが確保されるための電気的条件の設定や、ＭＩＤＩ用ＤＩＮコネクターのメカニカルな条件設定等について検討しています。

編集：貴部会にとって最も重要な課題はどのようなところにあるでしょうか？

小池主査：まず私どもは、今後新規参入してくるメーカーを含め、異なるメーカー間のＭＩＤＩ機器同士が問題なく接続できるようにしたいと考えています。そのため現在のＭＩＤＩ規格書に記載されていない細かな条件をどのようにＪＩＳ規格として表現していくか、それを決めることが当面の重要課題です。

標準化プロトコル部会

標準化プロトコル部会の重点活動内容について

ＭＩＤＩのＪＩＳ化を目指す標準化プロトコル部会。膨大な作業量をどのようなスケジュールでこなしていくかが、標準規格化の重要なポイントとなっている。

高氏清巳　主査

編集：標準化プロトコル部会の活動内容はどういったものでしょうか？

高氏主査：当部会は、ＡＭＥＩの社団法人化にともない、標準化インターフェース部会とともにＭＩＤＩの標準規格化つまりＪＩＳ化に向けての実務を行うワーキンググループとして発足し、昨年の８月より活動を開始しました。また両部会を兼任するメンバーがおりますので、実際には両部会の合同部会として活動しております。

編集：今までの活動内容についてお聞かせください。

高氏主査：まず部会活動開始に当たり、電子音楽標準化方針委員会より“ＭＩＤＩ規格書(Document Version 4.2)をベースにＪＩＳ化、更にＲＰの取り扱いを検討”の考えを基本として部会での作業の方向づけが行われました。具体的に行ってきた活動としては、次のことが挙げられます。

・ＭＩＤＩ規格書(Document Version 4.2)の目次項目をベースにしたＪＩＳへの組み入れ範囲アンケートの実施とその結果からの組み入れ範囲の検討。

・ＭＩＤＩ規格書(Document Version 4.1)の日本語版をベースに実作業に着手し、テキストデータ化とＪＩＳ化文書案の作成及び課題検討。

これら２点が当部会の中心活動内容です。

編集：今後の活動目標は何でしょうか？

高氏主査：以上の活動を実施する段階で“作業量とスケジュールの兼ね合いに関して”といった課題が持ち上がりました。そのことについては委員会より“本年度中にオーバービュー（概説）部分のＪＩＳ文書化とディテール（詳解）部分の骨格構成を行うこと”という方針をいただきましたので、それを今後の目標として活動していくことにしております。

最後になりますが、ＭＩＤＩのＪＩＳ化活動を通じて、部員一人一人がＭＩＤＩの普及・促進のため、微力ながらご協力させていただいていることに感謝していることを付け加えたいと思います。

MIDI規格検討部会

GMシステムレベル2とスタンダードMIDIファイルの提案は目前

GMシステムとMIDIファイルの検討という2つのワーキンググループをもつMIDI規格検討部会。MMAへの提案など今後の活躍の場は広い。

富田淳　部会長

編集：貴部会ではいくつかのワーキンググループに分かれて活動されているようですが、それぞれの内容について教えていただけますでしょうか？

富田部会長：現在、当部会は2つのワーキンググループが活動しています。そのひとつはGMシステムレベル2の検討について、もうひとつは歌詞付きスタンダードMIDIファイルの検討について活動しております。

編集：GMシステムレベル2と歌詞付きスタンダードMIDIファイルについて、それぞれお話しいただけますでしょうか？

富田部会長：GMシステムレベル2は、GMシステムレベル1で明確になっていなかった部分を明確にして互換性を高めるとともに、音色数の拡張を初めとする各種のレベルアップを図ることを目的にしています。ただ時間的な問題もありますので、すでにまとまった部分をRPの形で最初に提案し、最終的にはGMシステムレベル2としての提案を行います。

歌詞付きスタンダードMIDIファイルの方は、使用する文字コードを指定できるようにして日本語などの歌詞も使えるようにするとともに、ルビの記述もできるような文法を提案します。英語圏以外の歌詞が記述できるようになるメリットは大きいと思います。

編集：海外に向けての提案のご予定はいかがですか？

富田部会長：もちろんこれらのことはAMEIだけで決定できるものではなく、米国のMMAも承認したうえで成立します。本紙が発行されている1月にはMMAの年次総会がありますので、そのときに両提案についての審議が行えるように準備を進めています。

応用研究部会

デジタル機器・楽器の相互接続方式の方針を決定

次世代MIDI規格のひとつとしても、また次世代のマルチメディア環境にも必要であるデジタル機器及びデジタル楽器の相互接続。その方式の具体的提案がなされようとしている。

池内順一　部会長

編集：昨年の具体的な活動内容についてお聞かせいただけますか？

池内部会長：まず当部会が取り組むべき課題として、次世代マルチメディア環境に必要であり、新たな利用可能性のあるデジタル機器及びデジタル楽器等の相互接続を取り上げることにしました。相互接続の方式は、インテルが提唱するUSB、アップルが同じく提唱するIEEE1394の2方式を検討し、将来性、実用性、さらにはヤマハの提案を考慮に入れた結果、IEEE1394をベースに具体的な検討を進めることになりました。つまり1394はオーディオとMIDIを同時に相互接続することを可能にし、次世代のマルチメディア環境を提案するものです。

編集：方針決定後の動きはどうなっていったでしょうか？

池内部会長：初めにヤマハの提案したIEEE1394を利用したmLANをベースとし、MIDIの部分について当研究部会で検討していくこととしました。

また、昨年の7月にはアップルの協力により、ジョナサン・ザー氏を招いてセミナーを開催し、IEEE1394に関する技術の紹介、習得を応用部会のメンバーのみならず多くの方にしていただきました。

編集：今後の活動計画や解決すべき課題などについてお聞かせください。

池内部会長：当部会としてはMMAとも協力し、IEEE1394のMIDIに関する技術検討を進めつつ、なるべく早い時期に規格化を図っていきたいと考えています。しかしながら規格化にあたっては、その作業が膨大であるため今後各社の一層の協力が不可欠といえます。さらには著作権に関する問題もあわせて検討を進めていく必要があります。

安全規格部会

PL法対応の情報共有化を促進

あらゆるメーカーにとって避けては通れなくなったPL法。しかし国内初の試みであるだけに、今後、多くの事例蓄積と研究が求められる分野だ。

末次賢一　部会長

編集：貴部会の活動内容についてお聞かせ下さい。

末次部会長：当安全規格部会が行っている活動の第1には、製品の安全確保を目的として、各国の安全規格やEMC規制などを把握して会員へ徹底を図っていることが挙げられます。そして第2には一昨年よりスタートした国内PL法についての対応を進めていることがあげられます。

編集：貴部会でとくに重点を置いて活動されていることは何でしょうか？

末次部会長：現在の最重点活動は、そのPL法に対し、製造者としては具体的に設計や評価の段階でどのようなことをすればよいのか、あるいはどのような事例を想定して評価を行えばよいかといったことをわかりやすくまとめるということです。いいかえればPL想定事例集ともいうべきマニュアルを作成し、会員の情報共有化を図ることです。この安全関連情報が共有化されれば、各社の製品の安全性がより一層高まって行くことでしょう。

環境問題研究部会

企業の環境保護活動は時代の流れ

ISO14000の制定に代表されるように、企業の環境問題に対する対応が問われ始めている。環境対策は、まさにこれから避けては通れない問題であろう。

櫻井洋一　部会長

編集：昨年の活動内容についてお聞かせ下さい。

櫻井部会長：当部会は、約１年半前、世界的な環境問題に関する意識の高まりと、それを具現化した環境に関する規制や法令が次々と制定されるなかで発足しました。それ以来、２カ月に１度の部会活動を行い、環境に関する法令・規制の勉強会や各メンバーが持つ環境に関する情報の交換を行ってまいりました。その一方で「製品アセスメントマニュアルの電子楽器版」を改訂発行することもできました。

編集：最近の活動に変化はありますでしょうか？

櫻井部会長：活動の主体が、勉強会から環境に関する講演会になってきたことがことが大きく変わったところです。これをはじめ、最近では部会のメンバーだけでなく、各企業の関係部署を含めた広い範囲の方までを対象とした活動をおこなっていることが特徴といえるでしょう。

編集：昨年制定されたISO14000が企業に与える影響についてどうお考えですか？

櫻井部会長：環境に関する国際規格であるISO14000が昨年９月に制定され、国内でもJIS14000が制定されたのはご存じのとおりです。今後の企業の環境に関する活動は、これらの規格に基づき、第三者認証機関から「環境認証」を受け、「環境に優しい企業」と社会に認めてもらうことに変わって行くものと考えています。

編集：全ての企業が環境問題に前向きと考えてよいでしょうか？

櫻井部会長：当部会で活動されている各社の例でいえば、各社とも環境問題には前向きに取り組んでおられますが、その活動の進度は非常にバラツキが大きいのが現状です。すでに環境認証を受けた会社や、96年度中に環境認証を取得しようと活動している会社がある一方で、環境認証よりISO9000シリーズの取得を優先的に考えている段階の企業もあります。しかし当部会としては環境保護の重視は、間違いなく世の中の流れであるとの確信をもって部会運営を行い、さらに各企業の社内に環境保護活動を展開して行くことが重要な課題であると考えています。

マーケティング部会

販売力向上のための人材育成が不可欠

専門店社員と楽器レコード店社員がもつ営業上の知識・ノウハウの落差はそのまま販売力の差となって現れている。それを向上させる具体的方策について探る。

伊藤敏雄　部会長

編集：今後、販売・営業上の観点から貴部会の課題とされることは何でしょうか？

伊藤部会長：昨年行われた「MIDI WORLD '96」にて開催された「ＭＩＤＩセミナー（次世代ＤＴＭショップの展望）」の反省会で、会員からも話がでましたが、卸屋の営業担当と楽器レコード店の社員に対する営業上の教育を徹底する必要があること、そしてこれを継続して実施していくことが、当部会として一番大事なことであると考えております。

編集：楽器レコード店社員の不足要素はどこでしょうか？

伊藤部会長：例えば専門店における社員は、おもに①ハードに対する知識と取り扱い、②ソフトに対する知識と取り扱い、③販売上必要とされる知識、④顧客への対応の仕方、の４点についてよく理解していると思います。これらを楽器レコード店の社員にどのようにしてわからせるか、また彼らに営業上の利点とは何かをどうわからせるかが必要でしょう。もし理解させることができれば、店頭での商品の展開、ひいては販売の促進につながると思われます。

編集：人材育成についてなにかご意見はおもちでしょうか？

伊藤部会長：現在、他の部会で行っている人材育成は製作サイドに立ったものになっていますが、販売面での人材育成はより大切であると思います。つまり部会のみならず、協会全体の課題として取り組むべき問題であるとも思っております。

編集：売上向上には販売力のほかに商品力を増加させる方法もあると思いますが？

伊藤部会長：自然消滅した形になっていますが、以前にいろいろと話し合いのあった統一パッケージを含め、店頭の商品に統一感をもたせることも、小売店に対する教育とあわせて今後の発展に必要なことと思っています。もちろん、これについては制作者サイドの賛同が得られるように考えていきたいと思っています。

マルチメディア研究部会

勉強会テーマの早期告知と参加者数増加が重要目標

ＡＭＥＩにとって必要不可分な分野であるマルチメディア。最先端での進化状況の把握と一般ユーザーの浸透度を知ることが企業に求められている。

古屋国忠　部会長

編集：マルチメディアというものに対して、貴部会はどのように取り組んでおいででしょうか？

古屋部会長：「マルチメディア」はＡＭＥＩにとってまさにキーワード的事項であるといえます。従ってマルチメディア研究部会のテーマはその分野の最先端状況を紹介し、これを各企業がどう取り込んでいくかのヒントを得ていただくこと、またマルチメディア環境がどのような形で一般ユーザーに浸透していくのかを予測する手掛かりを得ていただくことと思います。

編集：ヒント、手掛かりを得ていただくために、具体的にはどのような活動をされていたのでしょうか？

古屋部会長：今年度、当部会ではマルチメディア関連の研究開発と商品化を推進していらっしゃる企業の責任者をお招きして『わが社のマルチメディア戦略』などのテーマで勉強会を進めてきました。これらは大変有益であったとの声をいただいております。

編集：これらの勉強会について、今後改善すべき点はおありでしょうか？

古屋部会長：過去の経験からすると勉強会に出席する部会員数がいまひとつ伸び悩んでいたことがネックといえます。これは勉強会の連絡が直前になってしまったことも大きな理由でしょう。このことからテーマの早期告知推進とそれによる参加者数の増加促進は重要なテーマであります。とくに若い会員の皆さんには積極的にご参加いただき、効果的フィードバックに結びつくように期待して止みません。

カラオケ部会

定率制「著作権使用料」の確立が急務

カラオケ事業の存続にもかかわる「著作権使用料」の算定方式。旧来の方式は、楽曲数の増加と実際に歌われる曲数の差が反映できないところに改善の余地がある。

三森茂樹　部会長

編集：カラオケ事業が直面する重要な課題には何があるでしょうか？

三森部会長：当面、実現すべき課題は「著作権使用料」での定率制による算定方式の確立に絞られるといってもいいでしょう。社会が、いよいよマルチメディア時代に突入しつつある中、通信カラオケはマルチメディアビジネスの重要なコンテンツであり、そのさきがけ的存在ともいえます。

今後、楽曲数も２万、３万と逐次増加が予想されますが、実際に歌われる曲数は同率で増加するわけではありません。にもかかわらずＪＡＳＲＡＣは相変わらず、旧態依然とした著作物楽曲数単位の算定方式に固執しているように思われることは、誠に残念なことであります。

編集：楽曲数単位の算定方式がカラオケ事業に与える影響についてもう少しお聞かせ下さい。

三森部会長：これを履行すれば、ほどなくカラオケ事業は成り立たなくなってしまいます。それはマルチメディア社会到来の危機をも意味し、同時にＪＡＳＲＡＣ自身の設立目的にも反するわけです。権利者にとっても本意なこととは考えられません。

編集：やはり定率制算定方式の実現に努力されるわけですね。

三森部会長：カラオケ事業が成り立たないというような事態を避け、またマルチメディア関連産業の振興を図る意味でも、やはり「著作権使用料」は売り上げに応じた定率制による算定方式が最適であると考えております。そのために今後も伝送系部会と合同で意志の疎通を図り、他団体への影響も考慮に入れ、妥当な料率による定率制方式の確立に努めることこそが、現在最も重要なことであると考えます。

伝送系部会

市場に適合した著作権料を設定すべき

パソコン通信を使った音楽データの販売の著作権料はどのように制定すべきか。パソコン通信・インターネットの利用者が膨大となった今、調和のとれた水準での合意が目標。

西久保慎一部会長

編集：通信によるデータ伝送技術の進歩と著作権のかかわりについてどのようにお考えでしょうか？

西久保部会長：ここ３年ぐらいの間にパソコン通信・インターネットへの参加人口は飛躍的に伸びてまいりました。また通信によるデータ伝送技術の進化も目覚ましく、それにあわせてインフラも整備されつつあります。まさにマルチメディアを体感できる時代がきたと思います。

このような流れの中にあっては、音楽著作権に関しての未解決な部分は早期に解決しなければなりません。そこで著作権委員会・伝送部会としては、現在パソコン通信を使って行われている音楽データの販売について著作権料の交渉を最優先で進めております。

編集：解決すべき具体的な課題はどのようなものが挙げられますでしょうか？

西久保部会長：そもそもパソコン通信を使った音楽データの販売は３年ほど前から始まっていたのですが、ＪＡＳＲＡＣが既存のルールを無理やり適用しようとしたため、業界団体との合意が遅れてしまいました。しかし利用人口が延べ1000万人を超えた現実を考えると「通信を使った音楽データの伝送」は新たな分野として市場に適合した著作権料を制定すべきであります。これにはインターネットでの利用を踏まえ、国際的にも調和のとれた水準での合意を目標にしています。

プロテクト部会

データの自由複製は、商用目的での無許諾使用につながる懸念

従来からの懸案であった音楽データのプロテクト問題。しかし、この業界としては初の試みであるだけに今後多くの事例蓄積と調査研究が求められるテーマだ。

福田誠　部会長

編集：まずはじめに、貴部会の活動や役割について教えていただけますか？

福田部会長：現在多量のＳＭＦ形式の音楽データが、フロッピーディスクやパソコン通信等を経由して、さまざまな形で市場に出回っています。しかも、それらのデータは誰もが自由に複製できるため、著作権者やデータ制作者の許諾を得ることなく、商用目的で簡単に利用されかねない環境下におかれています。

しかしながら今後のマルチメディア市場の発展を考えるとき、これは決してこのまま放置されるべきものではなく、何らかのデータプロテクト対策を業界レベルで施しておく必要があると思われます。

プロテクト部会は、この目的を達成するための取り決め案を具体化し、かつ実施に向けての具体的な行動を起こしていく目的で、著作権委員会の中に設置された部会なのです。

編集：貴部会の現状の活動についてお聞かせいただけますでしょうか？

福田部会長：まず当部会の中にワーキンググループを発足させて、ＳＭＦ形式の音楽データを保護するための技術的検討を開始しました。また、このプロジェクトを全世界的なレベルで展開させる目的で、米国ＭＭＡ(MIDI Manufacturers Association)との情報交換を開始しました。

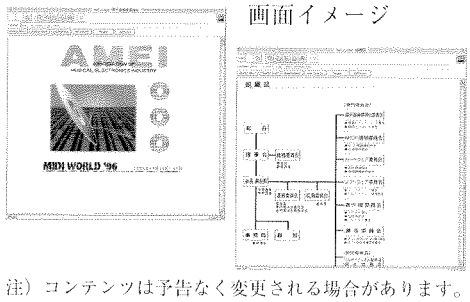
編集：今年の重点課題として挙げられているテーマにはどのようなものがあるでしょうか？

福田部会長：第１に、データ保護のための技術的な具体案を、ＭＭＡと連携して固めること。第２に、実施に向かってのビジネスレベルでの全世界的合意を取り付けること。第３に、データ保護の施されたデータが実際に実用化されるための、すべての環境を整えること。以上の３点が挙げられます。また、この問題によって不利益を被る会員企業が存在する以上、実施に向けての歩みを早めていきたいと思います。

最後になりますが、関係各委員会及び関連団体の皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いしたいと思います。

AMEIオフィシャルホームページ開設のお知らせ

AMEIオフィシャルホームページ
(URL http://www.amei.or.jp)
※97年1月末よりURLが上記に変更になりました。ご注意下さい。



画面イメージ

注）コンテンツは予告なく変更される場合があります。

INDEX
メニュー

ごあいさつ

組織図

専門委員会
活動内容

お知らせ

会員リスト

会員会社のホームページへリンク

関連団体のホームページへリンク

電子音楽標準化委員会 活動報告

MIDI規格委員会 活動報告

ハードウェア委員会 活動報告

ソフトウェア委員会 活動報告

著作権委員会 活動報告

業務委員会 活動報告

マルチメディア人材育成研究委員会 活動報告

デジタル・レコーディング研究委員会 活動報告

AMEI 会員名簿

(五十音順)

あ

株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社アイデックス
赤井電機株式会社
アカソフト
アスキーネット株式会社
アップルコンピュータ株式会社
株式会社アッポサウンド

い

株式会社石橋楽器店
有限会社インターネット

え

株式会社エクシング
エディロール株式会社

お

株式会社大阪村上楽器
株式会社大阪有線放送社
株式会社音響総合研究所

か

株式会社楽販大阪
カシオ計算機株式会社
株式会社カミヤスタジオ
株式会社カメオインタラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所
株式会社神田商会

き

ギガネットワークス株式会社
株式会社キュービジョン
有限会社キュービックエナジー
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

コナミ株式会社
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サウンドクラフト
株式会社サンワード

し

株式会社シーティーエー
島村楽器株式会社
株式会社シーミュージック
株式会社ジャストシステム
株式会社ジャパンインスツルメント
シャープ株式会社
学校法人尚美学園

す

株式会社鈴木楽器製作所
株式会社ズーム

せ

セイコー電子工業株式会社
株式会社セガ・エンタープライゼス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社第一興商
株式会社タイカン
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タイムウェア
株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社
TDK株式会社
株式会社電波新聞社

と

東映ビデオ株式会社
東京サウンド株式会社
東京通信機工業株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社友ミュージック

な

南洋貿易株式会社

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
日本アイビーエム株式会社
日本コロムビア株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社

は

パイオニア株式会社

ひ

ビクターテクニクスミュージック株式会社
ビクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社ブライトインターナショナル
株式会社プリマ楽器

へ

ベスタクス株式会社

ま

マスターネット株式会社
松下通信工業株式会社
松下電器産業株式会社
松下電工株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージックネットワーク

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ

〈会員会社92社〉

〈賛助会員〉

株式会社アンディーズ・ミュージック
株式会社音楽之友社
株式会社ミュージックトレード社
有限会社ミュレイディア
株式会社ヤスダコーポレーション
株式会社ラブラス

AMEI NEWS　Vol.3／1997.1.31
社団法人音楽電子事業協会　機関誌
発　　行：　社団法人音楽電子事業協会　事務局
〒102　東京都千代田区飯田橋4-4-7　オービットビル4F
TEL.03-5226-8550　FAX.03-5226-8549
発 行 人：　中田　健
編 集 人：　福田　誠（広報委員会）
編集協力：　GIG 28 INC.